



八戸

経験交え地域文化論語る

大島前衆院議長 八学大で講義

八戸学院大学（水野眞佐夫学長）は7日、大島理森前衆院議長を外部講師に招き、健康医療学部で講義「地域文化論」を行った。

大島氏は縄文から現代までの日本や本県の歴史、約半世紀の政治経験などを交えながら、約1時間半にわたり文化論を語った。

地域文化論は証谷伸夫八戸市公民館館長が講義を担当を務め、八戸の特徴を学ぶこと

文化論をテーマに学生に語りかける大島氏

を目的とした講義。大島氏は「人間が社会に働きかけて何かをつくり出すこと、それが想像力、文化だと思う。その意味では政治も文化の一つ」と述べ、自身の初選挙では中央と本県の県民所得の格差是正を訴えたと説明した。

地球環境やロシアのウクライナ侵攻に触れながら「皆さんは寛容性を持ってほしい。グローバルの時代、良き寛容性を持つことがその国の文化や人々の発展に大きな影響を及ぼす。だからこそ日本や自分の地域をよく知り、的確に伝える必要がある」と学生に呼びかけた。

（三好陽介）